馬琴作

59

遠13
2378
59

天保八年六月吉日

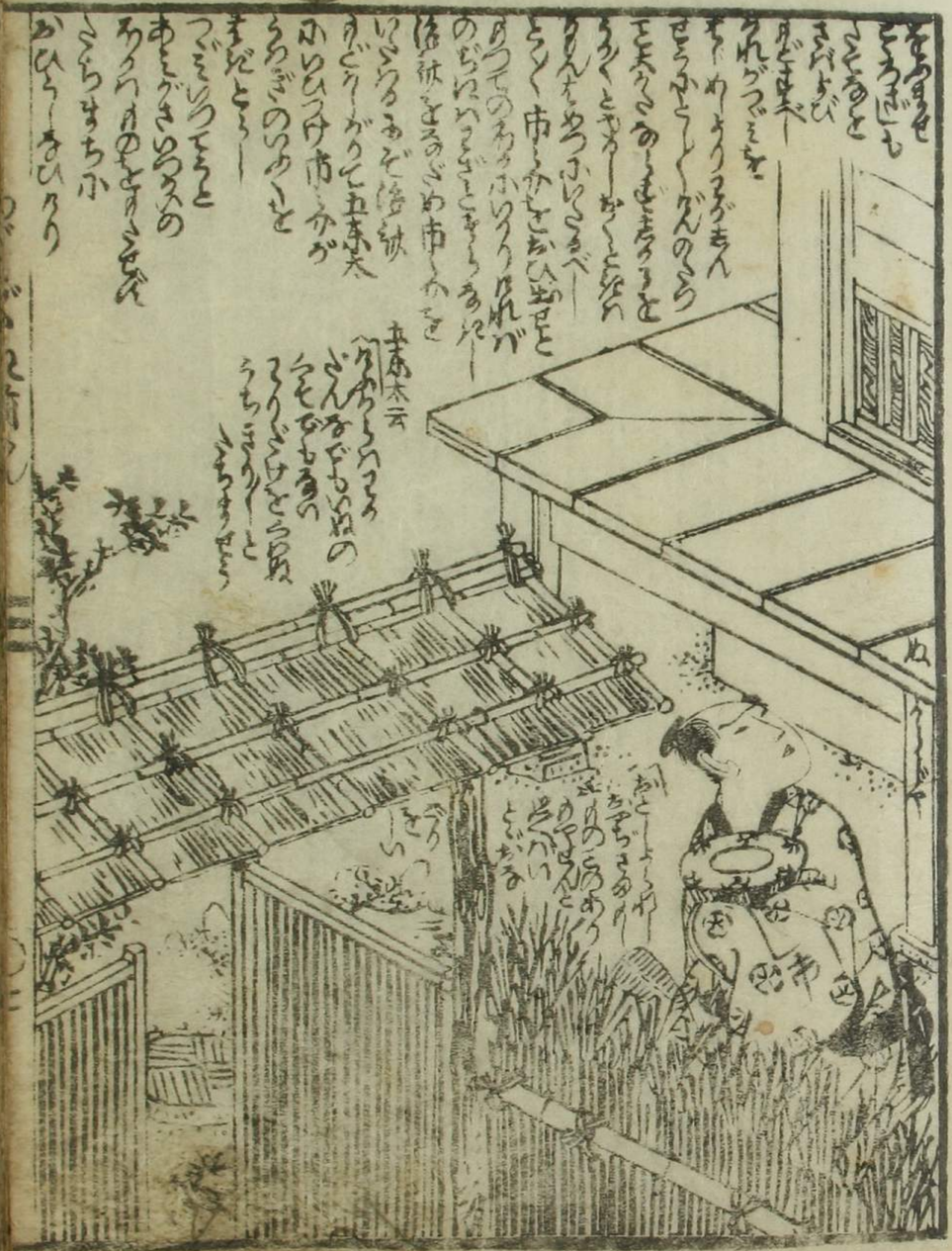
黒岡八三郎

詰て云。富貴天ふあり。死生命あり。況夫天の聽さる富と
利ふ
謀て悪をなすものハ。命ふあらざるの死をなさんことを。壁言ハ風ふ
逆て灰を撒とハ。その灰悪己ハ自ふかゝるが如し。亦彼僥倖の士
命薄して沈淪もとも。天運循環して子孫終ふ繁昌
壁言ハ草木黄落といへども。春ふ至て花咲子を締が如し。志ふ
ども凡夫悟ることなき。癡猿水月を採の悔。一盲衆盲を引の悟
只眼前の利ふ誘ひて身後の羞を忘ふ似たり故ふ楊子
岐道ふ哭し。墨子ハ練絲ふ泣て豈緘ざんや。豈緘ざんや

前山ノ色々
命五切
色ちハ
落城を
和二州
下ニ恩ハ非ス
ハ昌ノ配
下ニ色を
色色欲ス

文化 丙寅の秋似り
乙卯の正月出ス

曲亭馬琴謹識



正

内百番

軍
軍

佐川治郎八まさこと
音てこはくらん
馬琴作
曲亭馬琴作

馬琴作
豊廣画

正

角殿正房
五

車
稿

黄香
熟半
白玉
走砂

五郎太いすでふゆをさえ
ちくるるしくがごろゆを
がーくめをふゆえるくさを
ところさんとてゆくろを
ゆくるにちろごろの大
あゆふくちらえて大ある
ゆるみありをれをつく
ろろんとてあびるどおれ
くつくおくろがゆれば
とれろをぞろるうと
よろこびくちよろさゆ
ふて光ぐくおやるを
ちぐんのらえあゆ
つるおをーうよりつちを
ふれれどもどうくのつ
ちまていまくくうまる
べゆゆくねべらぐんの
ちをまもあけれう
まうちをいちゆんふ
あくーと人のちろ
ざるやうにこーらく
つひふゆえらゆふ
しとひろうゆを
さえくちろくれば
ゆべ浴欲ふゆじ

ちくるるしくがごろゆを
ふーをゆ三のくちに
がゆくるふどすで
ふとるりゆとのく
ゆくてをぐるる
りくさるく
ゆるまひくり
すべてるの三人ゆ
ゆくさぐくとく
んふゆるく

まるれるる
るる光くる
市ちくくは
くえあるく
けふとされ
いくさるぐく
くうまれる
いくまーくり
ゆるさいぐ

ちゃうちん
いろ〳〵

ちきう
いろある
ぎょう
らせふ
しゅと
えつる

月洲

軍
二

者
日乙とりつぐこが飛ぶこち

○豊臣川梅柳新書

文化六年己巳 新刻繪草紙

孝行記 勸善辻談議 全部 山東京傳作 歌川豊国画

因縁物語 躾草娘庭訓 全部 山東京山作 八冊 歌川豊国画

五大切 全部 山東京山作 五冊 歌川国貞画
后編 其後日三伍大切

戀女房離討双六 全部 蛟蜃輔作 六冊 歌川豊国画

播州鹿児川教信士由来 敵討爰高砂 全部 蛟蜃輔作 六冊 歌川国貞画

楚満物語儒家花 合巻 古人楚満人作 歌川国貞画

この草紙を出板愛生 江戸高砂町 中山南水堂 絵草紙問屋 伊賀屋勘右衛門板

徒書下

鹿島屋

家書

本書